



上 島 町

議会だより

No. 28

2012年 9 月

編集 上島町議会広報編集委員会

発行 上島町議会

〒794-2592 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削210番地 TEL 0897-77-2500



花火や出店、大勢の人で賑わった“かみじまふるさと夜市”

(8月4日 かみじまふるさと夜市実行委員会主催)

主 な 内 容

- 一般質問 2～6P
- 町議会議員研修会 7P
- 委員会合同視察調査研修 7P
- 定例会等採決結果 8P
- 議会の傍聴 8P
- 議会の活動 8P

6月定例議会

一般質問

6月19日に開催された第2回定例会においては、4名の議員が一般質問を行いました。

質問内容と答弁の要旨は次のとおりです。
(掲載の順序は質問順で、記事の内容は基本的には質問議員が編集しています。)

竹林秀夫議員



津波発生時による今後の行政、消防署、消防団、各地区自主防災、防災士、地域

住民等の津波退避の優先について

Q 東日本大震災の津波で多数の消防団員が犠牲になったことを受け消防団の安全確保について総務省消防庁は津波の恐れがある地震発生直後は、消防団の退避を優先させ、水門閉鎖や避難誘導も最小限にとどめるとする報告案に合意され、今後の住民の防災意識を向上させることの重要性も強調している中、津波等災害発生時の行政、消防、消防団、各地区自主防災、防災士などの組織と地域住民との連携した災害救助活動と津波退避の優先についての退避ルールを明確にした安全管理マニュアルの整備、運用についてお伺いします。

A (宮川消防長)

大規模地震等における津波避難の優先につきましては、津波警報等が発表された場合、津波到達予想時間が短い地区においては、消防団員であっても退避を優先し、危険が迫った場合の水門等の閉鎖活動は放棄し、消防団員自らの退避と住民の避難を優先する退避ル



佐島地区・総合防災訓練 (旧佐島小グラウンド)

ールを確立し、消防庁の中間報告に基づき、上島町津波災害時の消防団員の活動・安全管理マニュアルを改正しているところです。

現在、改訂中の「上島町地域防災計画」において、新設する津波災害対策編に危険を回避するため、防災対応や避難誘導に係る行動

ルールを定めることを盛り込み、今後対応していくことにしています。また、防災士の役割は、平常時の防災意識の啓発、自助・共助活動の訓練や研修などの実施、被害の拡大の軽減対策、被災者支援の活動、自主防災組織、或いは消防団員や地域住民との連携を通じて防災体制の充実を図るための様々な役割を担う旨位置づけています。

今後の主な行政運営と次期町長選挙への立候補について

Q 文化や習慣が異なる四ヶ町村の合併は制度や使用料等の統一において町民の納得が非常に困難な施策が多く生じることを覚悟の上で7年半にわたり町財政運営に最善を尽くさ

れて参りましたが今後更なる元気あふれる「ふるさと上島町」の発展と充実に向けての施策と来る11月予定の町長選挙に立候補されるのかお尋ね致します。

A (上村町長)

「ふるさと上島町」を一番愛しているのは、私であると自負しております。任期満了に伴う選挙出馬に於きましては、若者からお年寄りまで多くの皆さまから身に余る要請と激励をいただいております。本日もって正式に立候補の表明をさせていただきます。行財政運営については財政費用である実質公債費比率は、愛媛県下でも上位であり基金も前年度3億円を超える積み増しができ、今後も責任と負担を明確にし将来に付けを回さないよ

う健全な財政運営を行い子供達に夢を、若者達に勇気を、壮年の人達に元気を、お年寄りの人達に安心を、与えられる行政運営を務めて参りたいと考えております。

宮脇 馨議員



利用者の視点から見た交通体系の再構築について

Q 離島同士の合併という特殊事情の上島町は、各々の島を繋ぐ航路は勿論、港からのバス路線など島に住み続けるためのインフラとして、経済原則からかけ離れた状況で住民の要望に応えなければな



町営バス（弓削港前）

らない。不採算性、利便性、運賃の格差等について見直しの時期や方法、島ごとのバランス、交通体系全体の組み立て方をお示し下さい。

A（上村町長）

見直し時期はバスは8月を目標改正作業、生名フェリー今年度中に時刻改正を実施

します。見直しの方法利用実績は勿論住民の要望提案を分析し、現場の運転手や船員等の声も活かして改善したい。島ごとのバランス調整、交通体系全体の組み立て方は、今治航路、長江航路の予算案を計上しているように交通体系の維持、向上、格差是正を進めていま

す。今後は岩城橋建設の状況により交通環境の大きな変化が予想されるので、長期的視野で調整し適正に対応したい。

Q 住民の判断材料となるバス路線ごと、航路別の収支、利用状況の分析結果の提示が必要で公共交通審議会では出てこなかったが下水道料金改定では細かな資料等が指示され長期的な見直しに役立った。町全体の交通機関、ランドデザインを念頭にどの路線航路を誰のためにどの状態でどこまで負担するのか、みんなが解るように決めて行く必要がある。町の基本構想基本計画など長期的な計画にも位置づけを示すべきだ。

A（上村町長） 路線バスの収支分析資料が必要なら出しま

すが間違いなく赤字で目的は交通弱者の足を確保することです。岩城の福祉バスは無料で今後も収支が合う数字は出てこないと認識しています。バス路線は交通弱者対策としてみんなで負担して行く考えで捉えて欲しい。どんな場所でもどんな協議をするか提案させていただきます。住民の代表も入った形で全ての公共交通体系の話を

する場を作りたい。原案は行政側が作るようになりますが協力をお願いしたい。

Q 利用者の声、ニーズをどのように集約するのか、そのやり方について確認したい。交通体系全般について町の考えをどこかに明示しているか、なければ今後どこにどのように明示するのか。

A（中辻公営事業課長）

まちづくり懇談会や利用者の意見を日々蓄積し時刻改正等に活かしていきたいと考えています。

A（上村町長）

からのバスを走らせてどうするのかという意見もあります。お客様と接する運転手から本当に助かっているように聞くそうです。町が運営する公共交通は採算性は難しい、交通弱者のために必要という事で理解をお願いします。

地域コミュニティの再生策について

Q 独居高齢者の増加と住民年齢構成のアンバランスで集落における相互理解が急速に衰え地域社会が崩壊寸前となっている。地域の総合力を復活させるためには地域コミュニティ

イの再生が必要不可欠。そのために全国各地でコミュニティカフェの取り組みが広がっているが創設を支援する考えはないか。

A (村上総務部長)

コミュニティカフェ

は、地域の為に大切な施策と考えているのでNPOや個人、任意団体等から設立等の相談があれば情報提供や助言を行い支援したい。

コミュニティカフェは住民が気軽に立寄り交流できる「地域の茶の間」とも呼ばれ多世代が集まり顔なじみとなり高齢者や子育て世帯も安心して暮らせる町を創り出すと考えられ行政も適切な対応が必要であります。

Q 福祉見守りネットワークとの連携や地域の独居老人を含めた4人、5人とかの小さい単位でドンドン動かし

て大きなものにしていく必要がある。社協との連携、バックアップNPOの協力、遊休施設の活用等、有形無形のゼロ予算事業のような取り組みで十分対応できる部分もある。

A (村上総務課長)

町所有の空施設等について要望があれば支援していきます。

Q この場合の遊休施設の使用料は公共的な動きなので減免や無料等で活用できるのか。

A (上村町長)

公共的なものなので極力無料使用の体制を整えたい。ただ社協やNPOが主体の事業と判断しているので相談があれば協力する体制を整えたい。

通信体制の不具合について

Q 岩城地区の落雷停

電について予想外の通信体制の不具合が発生したようだがその実態について詳細な説明を。殆んど電化された現代社会にあつて、停電解消時に自動的に復旧しないシステムなどあり得ない。明らかに基本的な設計ミスと考

A (村上総務部長)

光電話導入前に住民説明会で町内加入者相互は無料のメリットと停電時使用不可のデメリットを示し選択をお願いしました。加入申込時にも再度説明し、申込者には停電後復旧のための4連差込口コンセントタップ利用と取扱いを説明しまし

た。平成22年11月号広報配布時に全戸折込みで周知を図ったが4連タップ未使用の家庭や理解不十分の方もいて今回の停電混乱となった。今後も4連タップ使用の徹底や分かり易い復旧手順を周知したい。

Q 通信体制は、非常時多々想定されるのにこのやり方で良いのか。自分も実際に町外との通信不能経験し根本的なシステムの改良は無いのかと考えた。

今回の通信体制システムはいろんな所で不具合が出ており防災訓練で聞こえにくかったりMCAも改善されていないのではないかと。電話回線はコンセントを抜き差ししないと復旧しない事が最初からわかっていて導入したのか。

A (上村町長)

停電の報告もなく中電も原因がどこからどこまでの停電かわからなかったようです。今のシステムでは4連タップに差しておればほぼ自動復帰するが、I

P告知との絡みで電源が復帰しても順番通りに差し込まないと復帰しないらしい。改良出来ないか業者に問い合わせています。4連タップを徹底させるため職員が説明に回るか業者にお願ひするかきちんとしたい。

Q この不具合はいつどの時点で判明したか、最初から何故かわらなかったのか、補助事業等についてはフィードバックというかチェック体制、誰がどこで責任を持ってチェックするのか見えてこない。システム導入時の行政のチェックのあり方が問われている。

A (上村町長)

この現象があることは設置前から説明しています。停電はめつたに起きないので忘れていても反応できるように指導強化いたしました。

Q 当初設計時からわかっていて、停電時にはこうなるがそれで十分という判断は誰がしたか。

A (上村町長)

判断は担当課、様々の会議でした。停電は何年かに1回なのでそれより皆様が無料通話できる方がメリットが多いと判断しました。携帯電話も増えており、複数回線利用者は両方選択できるなどから総合的に判断しました。





道路の整備状況について

Q 合併後、生名橋、交流館、海光園、生名港務所、フェスパ、岩城庁舎等大きな事業が完成しましたが、道路の整備が一部区間を残して完成していない箇所が、何箇所も見られます。

- (1) 上弓削踊場付近
- (2) 生名、中村回漕店付近
- (3) 下弓削宮原邸前付近

等、交通量の多い場所なので、早急な対応が必要と思われます。地権者の同意が得られない様ですが、早急に

話し合いをもって誠意を示して交渉にあたっていたきたい。今後の計画、見通しについての様に考えておられるか伺います。

A (丸山産業建設部長)

ご指摘のありました3箇所については、愛媛県が県道改良事業として整備している箇所であり、県に確認した

ところ、道路整備が一部、進んでいない大きな要因は、ご指摘のとおり地権者との用地交渉にあると聞いております。

今後の計画・見通しについてですが、町としても引き続き県に協力し、地権者の要望等を再度確認して、誠意を持って交渉を続けて



下弓削宮原邸前付近

いくこととしております。

Q 生名橋が開通してフェスパ等の完成により、他県からの車や自転車も大幅に増え、道路の整備が当面の課題であると思います。

生名、弓削のメイン道路なので、早急に対応を考えていただきたい。

地権者との交渉も誠意をもって粘り強く交渉して早期に完成させる必要があると思われる。早急に地権者との交渉に当たり解決していただきたい。

A (上村町長)

広い道路から狭くなると危険性が増します。その辺は県道であります。使うのは殆んどが、町民であるという生活道路でございますので、県としっかりと協力をしていきたいと思ひます。ただ県

道でありますので、要請がないところも動けないという事で残念ながら、今ご指摘の部分につきましては、町長協議というか、町長

まで上がってきていない案件でございまして、県の仕事でありますので、県が自らの力で解決しようという位置づけにあるということとです。

どこまで手をつけたらいいのか、判断に苦しんでいるところで

ただこの土地につきましては、地元の問題ですので、私も今後、県から協力依頼がありましたら、しっかりと話しをして、交渉に参加させていただきま。地元の有志者、地元を良く知っているのは議員の皆様でございますので、どうか県から用地交渉がありましたら、議員の皆様

ご協力もお願いしたいと思ひます。

土居計彦議員



生名公営渡船の積み残し解消について

Q 生名橋開通後、生名渡船の運航については、再三、改善要望が出ていますが、今回私の質問は「土・日・祝日」には常態化していると利用者の皆様からの苦情が多い「積み残し」の解消を求めるものです。公営事業課は現状をどのように把握していますか。最近の調査のデータがあれば説明して下さい。生名橋効果と運賃値上げで

運航収益改善されています。利用者の皆様に喜んでいただくために、積み残し解消に向けた時刻改正や増便を要求する。

A(丸山産業建設部長)

積み残しが発生する時間帯は、立石側は午前9時台、長崎側では特に集中している時間帯はありません。現在の対応としては、状況に応じて、運航時刻表にかかわらず、臨時運航をしています。改善策としては現在運航している60便のなかで時間帯の便数を調整し、利用状況に合った時刻表に改正したい。9時立石発で積み残しが多いので、8時台後半に一便増便し、少ない時間帯を減便する手法を行いたい。

〔その後の動き〕

7月31日の全員協議会において町側から日、祝日

の2便増便の案が示された。8時台と18時台を増便する。認可完了後、周知期間を経て改正する由。

上島町の老人福祉への取組みについて

Q 高齢者医療費を抑制するため、高齢者の病院への長期入院が難しくなってきた。退院させられて、自宅に帰っても1人で生活できないようなケースへの町の対応を訊ねる。3月定例議会で福祉部長から独居高齢者見守りネットワーク事業について説明があったが、期限つきで退院を勧められ、受け入れて貰える介護施設などがなく、相談を受けて健康推進課が善処してあげた事例があれば、町民の皆様を紹介して下さい。

A(山下福祉部長)

ご指摘のような高齢者の場合、すぐに適正なサービスを受けられるよう、事前に入院している病院が、御家族の方に介護認定を受けるよう勧奨しています。上島町では、介護認定が必要な場合に、健康推進課の職員が事前に認定調査に行き、その後介護認定審査会で介護認定を行います。そして地域包括支援センターの職員、居宅介護支援専門員が退院後次のサービスが受けられるよう相談に応じています。

その内容としては、在宅サービスでは住宅改修、福祉用具の購入等によりすぐに生活できる環境の整備。訪問介護、通所介護、小規模多機能型居宅介護等町内に介護サービスもあります。又、必要に

応じて、医療療養型施設・介護療養型施設・老人保健施設及び本町の海光園等特別養護老人ホームの紹介も実施しています。相談を受けて担当課が対応した事例としては、介護度が高く身寄りのない高齢者に対し、特別養護老人ホームを紹介したこと、正式な入所判定により入所した事例があります。今後も引き続き、町民の皆様へは状況に応じて適切に対処します。また、町広報等で相談窓口を周知していきます。

文化財管理計画作業の進捗状況について

Q 前教育長が3月に退任された折、上島町の文化財の保護については、①新たな管理計画マニュアルを作成する。②専門的な学識経

験者を委嘱しての「上島町動産的文化財保護検討委員会」を立ち上げ、平成25・26年度から全町の文化財を整理し、展示活用すると約束された。新教育長が就任され3ヶ月が経った。約束した作業の進捗状況と今後の工程を訊ねる。上島町の文化財として、品目ごとにカードを作成して展示しなければならぬものがどれくらいあるのか。最終的にはどこに展示するのか。

A(亀山教育長)

5月29日(火)に第1回上島町動産的文化財保護計画検討委員会を開催し、平成24年度のスケジュール、現状と改善、動産的文化財基礎調査について協議しました。今年度3回、4回程度委員会を開催し、年度末には計画書を策定する。調査カ-

ドは作成済なので、今年度から調査を進めます。工程としては、今年度弓削地区と岩城地区、25年度に生名地区と魚島地区の調査を行い、調査結果の集約及び最終的な管理簿の作成を26年度に実施します。各地区の動産的資料の点数は、弓削地区約350点、生名地区約140点、岩城地区約250点、魚島地区約300点です。展示場所については保管方法も含めて上島町動産的文化財保護検討委員会で検討します。



第1回町議会議員研修会

7月2日(月)松山市道後 にぎたつ会館において第1回町議会議員研修会が開催されました。当日は議員10名が出席し、前段「災害列島日本・頻発する自然災害に備えて」と題して、講師・愛媛大学防災情報研究センター副センター長、教授 板屋英治先生の講演、また、後段「愛しき日本・危機を乗り越えるために」と題して、講師・政治ジャーナリスト・田勢康弘先生の講演がありました。板屋先生の講演では、現在、県内の自治体や建設業の事業継続計画(BCP)や住民の避難誘導等、危機管理体制の強化に関する調査研究、行政支援等を実施されており、特に内閣府「南海トラフの巨大地震モデル検討会」による東南

海・南海地震に対する被害想定結果等を踏まえ、災害の教訓として、(過去の災害・想定でイメージを固定させない。今の防災力では不足している。今の想定に対応した防災力は最低条件、想定を超えた場合のことも考えておく。相当の覚悟が必要である。様々な想定を考えて真剣に避難訓練を実施すること)等があげられ、頻発する自然災害、切迫する東南海・南海地震へ備えるよう説得力のある講演がありました。また、田勢先生の講演では、現在の民主党・野田政権の動向、特に小沢一郎氏の



政治家生活の最終場面で何をしようとしているのか、消費税増税反対なら、なぜ、党の会議に出席して意見を言わないのか。謎に包まれたまま「新党」結成にいくのか等、ユーモアにあふれた講演に、会場も笑い声や拍手で温かい雰囲気になっていました。大変有意義な研修となりました。

委員会合同視察調査研修

(東京・宮城県山元町方面)

猛暑の中、7月24、25、26日の2泊3日で委員会合同行政調査視察研修を実施しました。文教厚生委員会を中心に、総務委員会、産業建設委員会合同により、議員10名東京・国会議事堂・参議院予算委員会傍聴、宮城県山元町・被災地等を視察しました。24日、国会・参議院にて、当日開催されました予算委員会を傍聴することができました。丁度、参議院の予算委員会の集中審議で、野田総理をはじめ各閣僚の激しいやり取りが交わされ、丁々発止の見応えのある予算委員会を傍聴することができました。

ついて熱心な質問がされ、翌日の山元町被災地視察研修へ繋がるいい研修になりました。25日早朝、新幹線で1時間半、仙台駅に到着、小雨降る蒸暑い天候の中、一路山元町へ、被災地の現状と復興状況について町から派遣されている職員・田中耕造氏に話を聞くことができました。現地では生々しい大震災の傷跡を目の当たりにすることができ、特に海岸端の中浜小学校の被害の大きさには、目を見張るものがありました。2階の屋上近くまで津波が押し寄せましたが、無

事小学生59名全員助かりました。テレビ等で度々映像として見てはいましたが、実際に現場を目の当たりにすると、何とも言えない寂寥感に包まれました。二度とこのような災害が起こることのないよう祈るばかりでした。3日間の日本を縦断するハードな研修でしたが、大変実りの多い研修となりました。



6月議会より各議員の採決結果を掲載することになりました。
6月19日定例会議案採決結果（賛否が分かれた議案のみ掲載）

議 案 名	○賛成 ●反対 欠：欠席 退：退席																	結 果
	1 宮脇 馨	2 藏谷 重文	3 亀井 文男	4 檜垣 一成	5 濱田 高嘉	6 前田 省二	7 原山 公男	8 松浦 明廣	9 村上 要	10 大西 宗一	11 新川 健	12 岡島 政則	13 竹林 秀夫	14 濱田 勝祐	15 土居 計彦	16 池本 興治	17 松原 彌一	
議案第65号 平成24年度上島町一般会計補正予算（第1号）	●	●	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	●	○	○	可決
議案第68号 工事請負契約の締結について（上島町弓削総合庁舎耐震補強工事）	●	●	○	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可決
議案第69号 辺地に係る総合整備計画の変更について	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可決
意見書第10号 「緊急事態基本法」の早期制定を求める意見書	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可決

7月31日臨時会議案採決結果																		
議案第70号 工事請負契約の締結について（上島町弓削総合庁舎改修工事）	●	●	●	○	●	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可決

※議長は採決に加わりません。

意見書の提出について 次の3件の意見書を関係省庁へ提出いたしました。

1	「緊急事態基本法」の早期制定を求める意見書
2	災害廃棄物の広域処理の推進を求める意見書
3	北朝鮮による拉致問題の早期解決に向けた積極的で強力な行動を求める意見書

議会の傍聴について

議会の傍聴はどなたでもできます。

定例会は3月・6月・9月・12月に開催され、臨時議会は必要な都度開催されます。

なお、定例会や臨時会の開会日は、決定次第上島町ホームページの議会情報コーナーに掲載しています。（9月11日 全員協議会、9月18日 定例会予定）

《上島町ホームページ <http://www.town.kamijima.ehime.jp>》

議 会 の 活 動（前号掲載分以降）					
月	日	活 動 内 容	月	日	活 動 内 容
6	11	議員運営委員会	7	19	やり投げオリンピック日本代表 村上幸史選手壮行会 (生名小体育館)
	12	第4回全員協議会・議員協議会		24～	委員会合同行政調査視察研修 (東京都・宮城県山元町)
	19	6月定例会		26	
7	2	第1回町議会議員研修会(松山市)	31		第1回臨時会・第5回全員協議会・ 議員協議会
	12	高崎市議会保健福祉委員会との懇 談会（文教厚生委員会）			